

各位

東京大学大学院教育学研究科附属
発達保育実践政策学センター

**乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組みに関する調査
ご協力をお願い**

東京大学 発達保育実践政策学センター (Cedep) では、凸版印刷株式会社と共同し、幼児の非認知能力を育成する保育実践の研究を行っております。このたび、その一環として、保育・幼児教育の現場での、乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組みについて、学術的に把握することを目的とした調査を実施しています。

幼稚園教育要領、保育所保育指針、および幼保連携型認定こども園教育・保育要領において「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」が位置づけられ、2年が経ちました。併せて近年では、非認知能力や21世紀型スキルなどの用語が幼児教育の分野で注目を集めるようになりました。一方で、保育・幼児教育施設での非認知能力の認知度および、その他の資質や能力と比較した時の優先度についての実態調査は少なく、また、非認知能力を意識した具体的な実践が保育・幼児教育施設でどれくらい行われているかも明らかになっていません。非認知能力を含む、乳幼児期の子どもたちの多様な学びや育ちを園生活の中でどのように支えていくことができるのかを考えるため、根拠となる現場の先生方の声を集約し、学術的に把握したうえで社会に広く発信することが、非常に重要だと考えております。お一人でも多くの皆さまにご回答をお願いできますと幸いです。

※調査結果(速報値)は、12月中を目途に、CedepのWEBページ(<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/>)に掲載します。

【調査実施者】 東京大学大学院教育学研究科附属発達保育実践政策学センター

【調査責任者・担当者】 西田季里 同センター特任助教

〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1 E-mail: [kiri_nishida\[@\]p.u-tokyo.ac.jp](mailto:kiri_nishida[@]p.u-tokyo.ac.jp)

【調査目的】

保育・幼児教育の現場での、乳幼児期の非認知能力についての意識および取り組みについて、学術的に把握・検討することを目的としています。

【対象者】

保育・幼児教育施設の園長先生など保育・幼児教育施設の経営に関わる方、および保育者の先生など保育に関わる役職の方

【調査回答用 URL】 <https://forms.gle/i1u1J95uLHsoVHVj8>

※この URL にアクセスして、10月25日（日）までに回答してください。

※保育・幼児教育に携わる方々に本調査のことを知らせたり、SNS 等で発信したりしていただくことを歓迎いたします。

【調査の概要】

調査は、以下のパートから構成されています。

- I. 貴園および回答者の基礎情報について（園や個人を特定するような情報は収集されません）
- II. 非認知能力に関する理解および研修や活動の有無について
- III. 園や先生ご自身の教育・保育方針について
- IV. 乳幼児期の資質・能力の優先順位について
- V. 非認知能力に含まれる各資質・能力についての重視度や取り組みについて

【調査実施期間】

2020年9月24日（木）～10月25日（日） ※10月25日（日）までにご回答ください

【回答の任意性】

この研究にご協力いただくかどうかは任意であり、先生ご自身の自由意思にゆだねられています。途中で回答を止めることもできます。研究にご協力いただけないことで不利益につながることは一切ありません。

【個人情報の保護と情報の取り扱い】

・この調査は、園名やお名前を伺わない、匿名のアンケートによる調査です。個人を特定するような情報は収集されません。アンケートの最後に、ご連絡先をお伺いする項目がございますが、回答は任意です。

・データは統計的に処理します。

・自由記述に関しても、ご記入いただいた内容から園名や個人名が特定できないように、慎重に処理いたします。

・調査結果は、Cedep ウェブサイトに掲載するほか、学会や学術雑誌、および共同研究シンポジウムなどで発表いたします。

・データは研究成果の発表後も、Cedep において、少なくとも 10 年間は保存いたします。

【その他】

本調査は、東京大学倫理審査専門委員会において審査され、東京大学大学院教育学研究科長の承認を受けて実施しています。

ご意見、ご質問などございましたら、お気軽に下記までお寄せください。

調査専用お問い合わせフォーム

<http://www.cedep.p.u-tokyo.ac.jp/noncognitive-abilities-in-ec/>